

個別指導と的確な戦略で一人ひとりを合格に導く「メディカルラボ」

一人ひとりの生徒に合ったカリキュラムを作成し、1対1の個別授業で徹底指導を行う医学部受験予備校「メディカルラボ」。たとえ模試の結果がD判定、E判定でも、メディカルラボなら医学部に合格させることができるというその根拠はどこに？

学力判定テストで一人ひとりのカリキュラムを作成

2015年4月、1年の浪人の後に三重大学医学部に合格した揚妻大地さん。現役時に名古屋大学工学部の受験に失敗した直後、医学部に目標を変更したという。

「開業医の父に、仕事のことを聞いたり、患者さんから送られた手紙を見せてもらったりして、医者になろうと決心しました。でも、勝算はありませんでした。それほど名門でもない県立高校で、学年50番くらいの成績でしたから」

医系専門予備校を調べ始めたところ、親しい友人が「メディカルラボ」を教えてくださいました。彼のお姉さんもここで学び、医学部へ進学していた。「高校時代の模擬試験の成績を持参して説明を受け、設備面も優れているので、こちらに決めました」

生徒が最初に受けるのは、学力判定テストだ。このテスト結果と生徒の希望に沿って、担任が生徒一人ひとりに個別のカリキュラムを作成する。担任が生徒の学力や性格などをよく把握したうえで、教科別の専任講師に、この生徒に必要な学習分野とレベルなどの情報を伝達するのである。

弱点を見つけ集中的に克服する

揚妻さんの最初の学力はどうだったか。揚妻さんと月に1度の面談を通じ、二人三脚で合格を目指してきた担任の可児良友先生に聞いた。

「特に悪いところもないが、特に良いところもない。全体的に平均的でした。苦手な分野がある場合には教科の先生に報告し、そこを克服するための教材を使って集中的に授業を進めますが、揚妻君の場合は、どこが特に弱いというより、基本が抜けているところがありました。本気になれば、伸びしろが大いにある。医学部受験を突破するには基礎学力がとて大切なので、まずはそこを強化する指導になりました」

揚妻さんも言う。「入学した当初は、本当に基本問題ばかりやらされて(笑)。でも、やってみると、基本が抜けているんだなと痛感させられました。先生からは

膨大な情報から一人ひとりの戦略を練る

志望校を決定する時期に、生徒はメディカルラボの情報力に助けられる。メディカルラボに設置された情



メディカルラボの情報研究所が編集する医学部受験の情報誌。毎年10月初旬に発行される。

個別のペースで行われる1対1の授業。メディカルラボは板書にこだわり、生徒と会話しながら授業を進めるので、先生は生徒がどのように問題を解いたかまで把握できる。



「私たちは全国の大学の医学部の出題傾向、合格ライン、学費、難易度などの情報を入手し、変更が可能な形でストックしています。そのほか、当予備校から受験した生徒からの報告によって、各大学の今年の受験内容について、いち早く情報を入手しています」

「英語だけを見ても、極めて高い語彙力を求める大学もあれば、通常の長文問題の3倍もの長さの文章を読ませる大学もある。難易度も、配点も、大学によって異なります。そこで大事なのは、これらの情報を、生徒の得意分野や学力のレベルを熟知した先生たちが活用すること。そうすることによって、より綿密な指導が可能になる。メディカルラボが個別授業と担任制の中で情報を活かすことは、合格のための『戦略』です。学力だけで突破するのが困難な医学部という最難関を目指す生徒には、われわれが持つこうした戦略が欠かせないのです」

確かに、偏差値中心の志望校選択や集団授業では、これほど綿密な戦略を立てることは難しい。大学ご

に異なる出題傾向を調べ上げ、対策を個別に指導するメディカルラボだからこそ、情報を戦略として活用することができる。メディカルラボの生徒の中には、大手予備校の模試でD判定、E判定を受けていたにもかかわらず、希望の医学部に合格する生徒がいる。医学部受験への戦略が彼らを合格に導くのだ。



情報研究所の強み

メディカルラボには、全国16校舎を持つ利点を活かして全国医学部の入試結果や入試情報を収集し、各大学の入試問題の分析と次年度傾向の予測を専門的に行う「情報研究所」がある。メディカルラボでは、これらの情報と分析結果を授業や生徒との面談で活用している。また、全国で講演会「医学部入試合格ガイダンス」を実施、『全国医学部最新受験情報』も毎年発行している。



※東京新宿校、熊本校が2016年1月に開校予定。

平成27年度合格実績

私立大学医学部	
愛知医科大学	37名
岩手医科大学	11名
大阪医科大学	10名
金沢医科大学	31名
川崎医科大学	27名
関西医科大学	10名
北里大学	9名
杏林大学	12名
近畿大学	19名
久留米大学	6名
慶應義塾大学	1名
埼玉医科大学	18名
産業医科大学	3名
自治医科大学	2名
順天堂大学	4名
昭和大学	5名
聖マリアンナ医科大学	18名
帝京大学	14名
東海大学	23名
東京医科大学	3名
東京慈恵会医科大学	2名
東京女子医科大学	11名
東邦大学	7名
獨協医科大学	11名
日本医科大学	10名
日本大学	7名
兵庫医科大学	30名
福岡大学	14名
藤田保健衛生大学	24名

国公立大学医学部	
秋田大学	1名
旭川医科大学	1名
愛媛大学	1名
香川大学	1名
岐阜大学	3名
京都府立医科大学	1名
高知大学	1名
神戸大学	1名
札幌医科大学	4名
島根大学	1名
筑波大学	1名
東京医科歯科大学	2名
東北大学	1名
徳島大学	1名
鳥取大学	1名
名古屋市立大学	5名
浜松医科大学	1名
弘前大学	2名
広島大学	2名
福島県立医科大学	2名
防衛医科大学校	1名
三重大学	3名
山梨大学	1名

国公立大学歯学部	
九州歯科大学	1名
東北大学	1名
広島大学	1名

※医学部はすべて医学部医学科の最終合格者です。



念願の医学部に合格し、久しぶりに顔を合わせた揚妻君(左)と、担任の可児先生。面談でときには愚痴ったり気弱になることもあったという揚妻君。「でも、月曜から土曜まで、ここで朝から晩まで膨大な勉強をしたことが自信になりました」